未来に貢献するミカド電装の情報紙

## ONLINE

Vol.69 8 A ミカド電装商事株式会社 2017 〒984-0051 仙台市若林区新寺3丁目 TEL**022-256** 

FAX**022-291-5403** 

今さら聞けない省エネ・創エネの基本、知っておきたい最新情報

#### ● 今月の「ONLINE | 情報 ●

### デンキのお仕事 ~⑥ミカド金属(後編)~

前回に続き、当社と創業者が同じである株式会社ミカド金属(金属のリサイクル)の正木社長にお話を伺いました。



株式会社ミカド金属 正木睦彦社長

#### 電線はアルミを使って軽量化の方向

編集部:昨年の秋、閉鎖された仮設住宅で給湯器の盗難が相 次いでいるというニュースがありました。使用済みの給湯器 に価値があるようには思えないので意外でした。

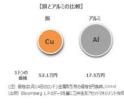
正木: 給湯器は内部に釜があってそれが銅でできているんで す。分解して取り出し、リサイクルして原料にしますので、 製品として使えるかどうかは関係がないんですよね。

編集部: 銅製品といえば鍋ぐらいしか思い浮かびませんが、 実際は電線だけでなく、色々なところに使われているんです ね。

正木:電線は逆に、銅を使わない製品が増えつつあります。 関西電力では家庭に送る配電線の新設や移設をアルミ線にし、 既設の配電線も30年程かけて全てアルミ線に交換するようで

編集部:銅とアルミで電気的な性質は変わらないのですか? 正木: 導電性は銅に比べてやや劣るため、その分、太さが必 要になります。すると表面積が増えて、風に揺れやすくなる など、アルミの電線は強度が課題でした。ですが最近は、特 殊な溝を入れて風の抵抗を軽減する方法があるようです。

編集部:アルミが使われるのは、銅よりもコストが安いから ですか?



出典:三井住友アセットマネジメント

正木: それは、もちろんありま すし、アルミは軽いので輸送コ ストも軽減できます。話はそれ てしまいますが、アルミ缶とス チール缶では、運ぶだけでも輸 送コストが違うんです。だから、 軽いものを開発すれば、色々な

面でコスト削減になるんですよね。銅を使わなくなるという ことはないと思いますが、そういう技術は日本や先進国が進 んでいます。

#### 地救会社をめざして

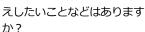
編集部: お客様のほうにも変化はありますか?

正木: 昔は、使わない物は廃棄物として捨てる感覚だったの ですが、今は「売れる」という考え方が一般の皆さんにも浸 透してきたと思います。それは価値があるからそうなってい るわけですが、資源は掘り出していくと、いつかは無くなる ものなので、これからはリサイクルがもっと重要になってい くと思います。当社のホームページや会社案内には「地救会 社をめざして」というスローガンを掲げてありますが、地球 の球の部分に"救う"という文字を使ったのは、永年培ってき たリサイクルのノウハウを生かして、豊かな資源を後世に残 したいという思いからなんです。

編集部:確かに資源は限りがありますものね。

正木: メーカー様も高い割合でリサイクルの原材料を什入れ ています。それにヴァージンのものを混ぜながら製品にして いきます。ですので、当社で買い上げた銅製品の中にも、す でにリサイクルされた銅が使われているわけです。資源を循 環させているんです。

編集部:無駄なく活用されているんですね。読者の方にお伝



**正木:**はい。皆さんが使って



いるものの中で、リサイクル できるものは、すぐに捨てる のではなく、価値があるもの かどうか、買い取ってもらえ るのかどうか、またはお金を かけて捨てなければならない ものなのか、それらをまず確 認してほしいと思います。お 住いの市町村でもいいですし、 当社でも結構です。ご質問が あればお答えしたいと思って

電線は破砕・分離して銅のナゲットへ

編集部:再利用できることを私達が知らないというケースも あるかもしれませんよね。今回は勉強になるお話を大変あり がとうございました。

取材先:株式会社ミカド金属 お話:正木睦彦 代表取締役 写真提供:株式会社ミカド金属 取材日:2017年5月2日 取材:ミカドONLINE編集部

## 今月の雑学

#### お店が名付けた商品名だった「笹かまぼこ」



8月6日~8日は仙台七 タまつりです。今年も 笹竹につるした豪華で カラフルな吹き流しが たくさん見られると思 いますが、笹と言え ば、もうひとつ仙台で 有名なのが笹かまぼ

こ。 笹かまぼこは今でこそ贈答品のイメージがありますが、 私が小さい頃は近所の小さいお店でも自家製の笹かまぼこをつくって売っていましたし、 市内のあちこちにそういった魚屋さんや蒲鉾屋さんがありました。

笹かまぼこは、明治の後半、ヒラメの大漁が続いたときに、保存のためにすり身にして焼いたのが始まりです。当時は保存設備も不十分だったため、叩き売りしてもまだあり余るヒラメはこうやって加工されるようになりました。明治・大正の頃の笹かまぼこは、統一した呼び名がなく、「べろ(舌)かまぼこ」や「手のひらかまぼこ」と呼ばれていましたが、昭和10年に創業した阿部蒲鉾店が旧仙台藩主伊達家の家紋「竹に雀」の笹にちなみ、「笹かまぼこ」と命名して売り出したところ、やがてその呼び名が広がったとのこと。エレクトーン、ホッチキス、セロテープなど、メーカーが名付けた商品名が一般的な名称になってしまう例は多々ありますが、笹かまぼこもそのひとつだったんですね。

## ただいまワタシのお気に入り

## 醤油麹(しょうゆこうじ)

(総務部 T さん/女性)



ミナド電装

出典:生活向上ラボ

私のおススメは醤油麹です。つくるのはとても簡単で、醤油と麹を1:1で合わせ、煮沸消毒したれて、1日1回清潔を温せんの保存容器に入って掻き混ぜ、吸収してはき混ぜを吸収して度醤油を吸収します。使う麹はなるようにしたはないで冷蔵ケースとで冷蔵ケース場

に並んでいる生麹を使い、醤油は発酵を阻害しない酒精(アルコール)不使用の醤油が推奨されています。今の季節だと3~4日。麹がふやけて柔らかくなったら出来上がりです。

出来た醤油麹は、冷蔵庫で保存です。少し前に塩麹が流行りましたが、塩麹よりも簡単にできて、しかも料理の幅が広いため、一度作ってみたところ、おいしくてハマりました。今の季節で一番おいしい食べ方は、胡瓜につけて食べること!あとはサラダもイケますし、麹の粒が気になる人はこし器で摺りつぶしたり、醤油だけすくって使うこともできますし、私は万能調味料として大変重宝しています。

#### 編集部より

先日、地域コミュニティラ ジオ局のエフエムたいはく に見学に行って来ました。

# このメルマガのライターでもある笹崎さんが担当している、30分のトーク番組なんですが、放送を生で見るのは初めてで、観ているこちらが緊張してしまいました。でも、もしかしたら、笹崎さんも、私が居たので緊張していたかも?(笑)

この番組の収益はハンディキャップのある方達の就業支援につかわれているとの事です。放送は木曜19:30から。ご近所の方は是非お聞きになってみてください。もしくは放送局に観に行かれてはいかがでしょうか?

(佐々木佳奈)

## POINT:

## **POINT!** チリ共和国で大規模リチウムイオン

## 蓄電システムが竣工

株式会社 G S ユアサのリチウムイオン蓄電システムが、チリ共和国「コクラン石炭火力発電所※1」に納入され、2017年1月に竣工しました。 このリチウムイオン蓄電システムは、株式会社 リチウムエナジー ジャパン製のリチウムイオン電池セルで構築されており、最大出力は20MWです。同発電所の発電能力の一定量を瞬時に出力するための運転予備用として設置され、発電所を支えていきます。

この納入は、商業ベースで世界最大級の蓄電システム



チリ共和国コクラン石炭火力発電所 (出典 GS ユアサ)

に、日本製のリチウムイオン電池が採用された初めての事例です。 今回のように発電所の予備電力、あるいは再生可能エネルギーの増加に伴う電力系統の安定化対策として、大型リチウ



ムイオン電池が担う役割は今後さらに大きくなるものと期待されています。 GSユアサでは長年の経験に基づく技術力とリチウムエナジー ジャパンの 量産技術を融合させながら、世界的なクリーンエネルギーへのシフトを今後 も支えていくそうです。

※1 チリ共和国で発電容量第二位の発電事業者であるAES Gener社(と三菱商事株式会社事)が同国北部第II州メヒジョネス郊外に建設した発電容量net 47.2万kW/gross 53.2万kWの発電所。

## ミカド電装商事株式会社 TEL-022-256-8191 FAX-022-291-5403

〒984-0051 仙台市若林区新寺 3 丁目 4 - 3 0

- ・ミカド電装 HP http://www.mikado-d.co.jp/
- ・大型リチウムイオン電池専用 HP http://www.mikado-d.co.jp/cp/

ミカド ONLINE

http://www.mikado-d.co.jp/m-online/

お届けした記事はネットでもご覧いただけます。 「ミカド ONLINE」で検索!!



編集:沢田元一郎·佐々木佳奈·笹崎久美子

※この配信サービスは無料です。※毎月1回の定期配信に加え、ミカド電装商事からのお知らせを不定期に配信する場合がありますので、あらかじめご了承ください。 本レターの第三者への転送、Web サイトなどへの再掲載はお断りいたします。また「バックアップ」の著作権は、ミカド電装商事㈱およびその情報提供者に帰属するため、掲載記事を許可なく転載することは禁じます。